

## EUROBIKE2012 及び DEMO DAY2012 参加報告

### 1. EUROBIKE2012

#### ①展示会概要

今年で21回目となる自転車展示会ユーロバイク(EUROBIKE2012)が、2012年8月29日(水)～9月1日(土)の4日間、ドイツ南部のフリードリッヒスハーフェン見本市会場で開催された。ビジネス関係の来場者数は前年より多い43,700人、出展社数は前年比8.6%増の49カ国・地域1,277社となった。更に1,889人(前年1,800人)の取材陣が訪れ、最終日の一般公開日には20,500人の一般来場者が会場に詰めかけた。

主催：メッセ・フリードリッヒスハーフェン有限会社

開催地：ドイツ・フリードリッヒスハーフェン見本市会場

会期：2012年8月29日(水)～9月1日(土) 8/29-31 ビジネスデー、9/1 一般公開

展示会場及び面積：14ホール、100,000㎡(昨年同様 ※A3,A4 仮設部分は含まれず)

入場者数：ビジネス来場者 97カ国 43,700人(昨年100カ国 40,000人超)

一般来場者 20,500人(昨年20,000人超)

出展社数：49カ国・地域1,277社 ※9/5 付出展者リスト集計(昨年44カ国1,176社)



シマノ



BMC

EUROBIKE2012の国・地域別の出展者では、依然として最多はドイツであり、前年比9%増の426社となり前年より35社増えた。全出展者の3分の1をドイツ一国だけで占め、更にドイツと台湾の出展者の合計651社で、全出展者1,277社の半数を占めている。他の欧州地域では、前年比4.4%増のイタリアが165社、英国は同比7.9%増の41社と増加した一方で、オランダは同比12.3%減の50社、スイスは同比17.1%減の34社となった。その他の主要国

では、スペイン、オーストリアの出展者は減少したが、チェコ共和国の出展者は増え、更にラトビア、リトアニア及びロシア等から新規出展があった。しかし、欧州全体の出展者数は前年増とはいえ、その伸び率はアジアや北米よりも低い率にとどまった。

アジア地域からの出展者では、台湾が前年比 7.7%の 225 社と更に増加を続け、特に中国は前年比 22.6%の 60 社と一層高い増加率を示した。また、韓国は前年の出展者ゼロから本年は 4 社が出展し、日本も出展者が前年より増える等、アジア地域の出展者は前年より 1 割以上も増加し、全出展者の 4 分の 1 を占めた。なお、米国からの出展者は、前年比 55.6%増の 70 社となり最も高い増加率を見せた。

出展参加国・地域は昨年より 5 つ増え合計 49 カ国・地域となり、地元欧州以外からの出展者がますます増加し、国際展示会としての地位を更に高める結果となった。出展者増の主な要因は、現在のドイツ、オランダを中心とした欧州の電動アシスト自転車 (EPAC) ブームを受け、従来の小間とは別に EPAC 出展用の小間を設ける既存の出展者が昨年以上に増加したためである。また、いまだに新規参加の機会を待ち続ける出展希望者のために、2009 年から設置したホール A3 の仮設展示場に加え、本年は更にホール A4 にも同様の仮設展示スペースを追加する等、主催者側の展示面積拡大の努力もあり、今回の出展者増加に結び付いたとも考えられる。



仮設展示スペースの様子（左：ホール A3、右：ホール A4）

## ②多様化する電動アシスト自転車

本年、この展示会で最も注目を集めた車種、商品は電動アシスト自転車 (EPAC) 及び電動自転車 (E-bike) と関連部品であったことは前年と変わらない。EPAC の車種として従来のシティ車、トレッキング車タイプに加えて、昨年からはスポーツ車タイプの EPAC が増えつつあったが、本年もその傾向は続いた。同展オフィシャルカタログによると、2012 年の本展示会の E-bike 出展者数は前年比 54%増の 156 社、EPAC の場合は同比 60%増となり、両車種に重複する出展者も多いものの、本年は一層の出展者増加率を見せた。

**図表 1: EUROBIKE の E-bike、Pedelec 出展者数の推移** (単位:社)

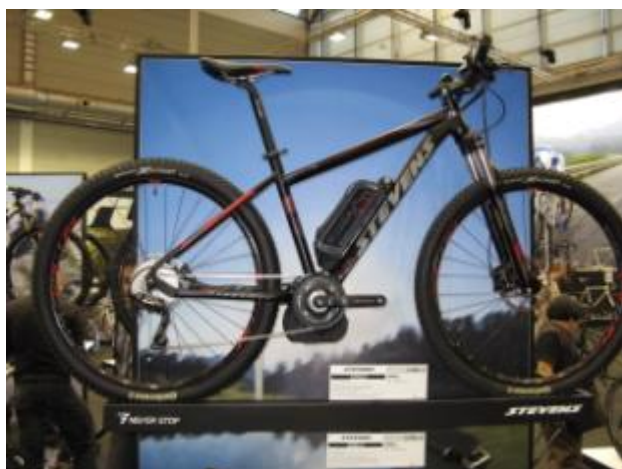
出展車種	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012
E-bike(電動自転車)	9	16	30	47	76	110	101	156
Pedelec(電動アシスト自転車;EPAC)	5	4	15	23	30	52	55	88

※2005 年のオフィシャルカタログより E-bike と、Pedelec に分類を開始

※同カタログ上では電動アシスト自転車 (EPAC) を Pedelec と表記

従来、ひとつのメーカーやブランドにおいては、同じユニットを全ての EPAC に装備する傾向が見られたが、近年、EPAC 自体がスポーツ車や小径車等へと多様化するにつれて、それらに合ったタイプのドライブユニットを装着するようになり、同じブランド内であってもユニットが多様化しつつある。なお、最近、欧州市場への再進出を公表したヤマハ発動機については、いくつかのブースで同社ユニットが装着された EPAC が出展されていた。

昨今のドイツやオランダを中心とした欧州の EPAC ブームに焦点を定め、近年、自転車業界外からの EPAC 関連品への出展が見られるようになった。いままではボッシュ、スマート等の自動車関連企業の参入が比較的に目立ったが、本年は世界的な電機メーカーである韓国のサムソンの関連会社がバッテリーを出展し、ドイツの有力家電メーカーの AEG が EPAC 用ユニットを出展する等、電機業界からの参入がみられ、上述の完成車メーカーのユニット多様化と併せて、欧州市場における EPAC 用ユニットのシェア争いは今度も続くことが予想される。



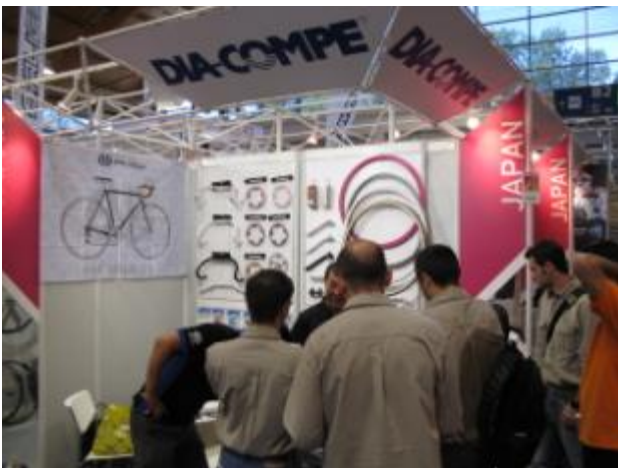
更に増えたスポーツ車タイプの EPAC (左 ; STEVENS、右 : BH Bikes)



更に増えたスポーツ車タイプの EPAC（左；Corratec、右：GHOST）

### ③JBPI 共同出展ブース

本年 10 回目の出展となる自転車産業振興協会 (JBPI) ブースは、昨年と同じ小間位置の B2-304 に 60 m<sup>2</sup> の 2 コーナーブースを設け、(株)スギノエンジニアリング (SUGINO)、(株)三ヶ島製作所 (MKS)、オージーケー技研(株) (OGK)、(株)ヨシガイ (DIA-COMPE)、パナソニック ポリテクノロジー(株) (PANARAGER)、(株)ハチスカ (HACHISUKA) 及び(株)近藤機械製作所 (GOKISO) の計 7 社の日本企業が共同出展した。ブースは B2 ホール中央のメインストリートに面し、来場者の往来が頻繁な好位置にあった。JBPI ブースは従来からブレーキ、ペダル、ハンドルバー、ステム、ギヤクランク等の日本の高品質自転車部品が集まる場所として知られている。また、今回、初参加の HACHISUKA はパンクしないチューブ、GOKISO は高品質のアルミ製ハブやカーボンの完組ホイール等を展示する等、各社とも熱心に出展活動を行い、JBPI ブースは来場者から多くの注目を集めた。



JBPI 共同出展ブース（左；DIA-COMPE、右；SUGINO）



JBPI 共同出展ブース（左；HACHISUKA、右；GOKISO）

図表 2：ユーロバイク 2012 共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所	電話 F A X	主な出品物
(株)三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 埼玉県所沢市靴谷 1738	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
(株)スギノエンジニアリング SUGINO	〒630-8144 奈良市東九条町 287-1	0742-62-5311 0742-62-5320	クランク、チェーンリング等
(株)ヨシガイ DIA-COMPE	〒571-0008 大阪府門真市東江端町 7-25	072-884-8020 072-884-8030	ブレーキ、ヘッドセット等
オージーケー技研(株) OGK	〒577-0066 東大阪市高井田本通 6-2-32	06-6782-4353 06-6782-4357	幼児用座席
パナソニック ポリテクノロジー(株) PANARACER/	〒530-0044 大阪市北区東天馬 2-9-1 若杉センタービル 8F	06-6354-7811 06-6354-7834	タイヤ
(株)ハチスカ HACHISUKA	〒444-2111 岡崎市西阿知和町御用田 1-1	0564-45-7171 0564-45-6262	パンクしないチューブ
(株)近藤機械製作所 GOKISO	〒497-0048 愛知県海部郡蟹江町舟入 1-130	0567-95-1343 0567-95-7296	完組ホイール、ハブ

#### ④今後について

本年の初頭、米国の大手ブランドのトレックがユーロバイクに出展しないことが明らかになった際、同展も米国自転車展インターバイクのように主要ブランドの出展が次第に減るのではないかと懸念する声も一部にあった。欧州通貨危機の先行き不透明感も重なり、ユーロバイクの将来が不安視されたが、本年のユーロバイクの出展者、来場者等が増加したことや、実際に 2012 年の展示会場の盛況ぶりを見る限りでは、その懸念がすぐに現実となると想像はできない。また、現在のインターバイク展が北米市場において最大規模を誇り、依然として重要な展示会である事実が変わりはなく、欧州においても国際自転車展はこれからも必要と

され、急激に衰退することも考えにくい。

なお、トレックは本年7月にドイツのフランクフルトにて、自身の顧客である欧州自転車小売店を主な対象とした新商品発表会を開催した。同社のこの動きは、既に米国で行っている活動形態を欧州で踏襲したものである。欧州自転車市場において、これに追随するような兆しは今のところ見られないが、自社の顧客を対象としたハウスショーや内覧会に軸足を移すメーカーやブランドがこれからも出現するのか、各社の動向に注視したい。

なお、本年8月中旬にミュンヘンで ISPO Bike が開催された。その内容を見る限りでは、昨年までの EXPO-BIKE から大きな発展を遂げたとは言い難く、近い将来ユーロバイクを脅かす存在となるかは今のところ不明である。通貨危機の影響が現在の南欧諸国から、比較的、自転車市場が堅調とされる中部及び北部の欧州諸国へ、どのような形で波及するのか不透明であり、中長期的な予測は困難であるが、それでもなお、しばらくの間は、ユーロバイクが世界一の自転車展示会の地位にあるとの予想は難しくはない。

次回 EUROBIKE2013 は 2013 年 8 月 28 日(水)～31 日(土)の 4 日間の予定である。

**参考資料： EUROBIKE2012 国・地域別出展者数**

国・地域名	出展社	国・地域名	出展社
ドイツ	426	セルビア	1
イタリア	165	マルタ	1
オランダ	50	キプロス	1
英国	41	ロシア	1
スイス	34	モナコ	1
スペイン	24	リヒテンシュタイン	1
オーストリア	22	アンドラ	1
フランス	21	イスラエル	4
ベルギー	17	トルコ	1
チェコ共和国	15	南アフリカ	1
スウェーデン	10	チュニジア	1
デンマーク	7	米国	70
ハンガリー	6	カナダ	6
ポルトガル	5	オーストラリア	2
スロバキア	4	台湾	225
ブルガリア	2	中国	60
フィンランド	2	日本	16
ノルウェー	2	香港	7
ポーランド	1	タイ	6
ルーマニア	1	韓国	4
ルクセンブルク	1	パキスタン	4
ギリシャ	1	シンガポール	1

ラトビア	1	スリランカ	1
リトアニア	1	マカオ	1
スロベニア	1	合計 49 カ国	1,277 社

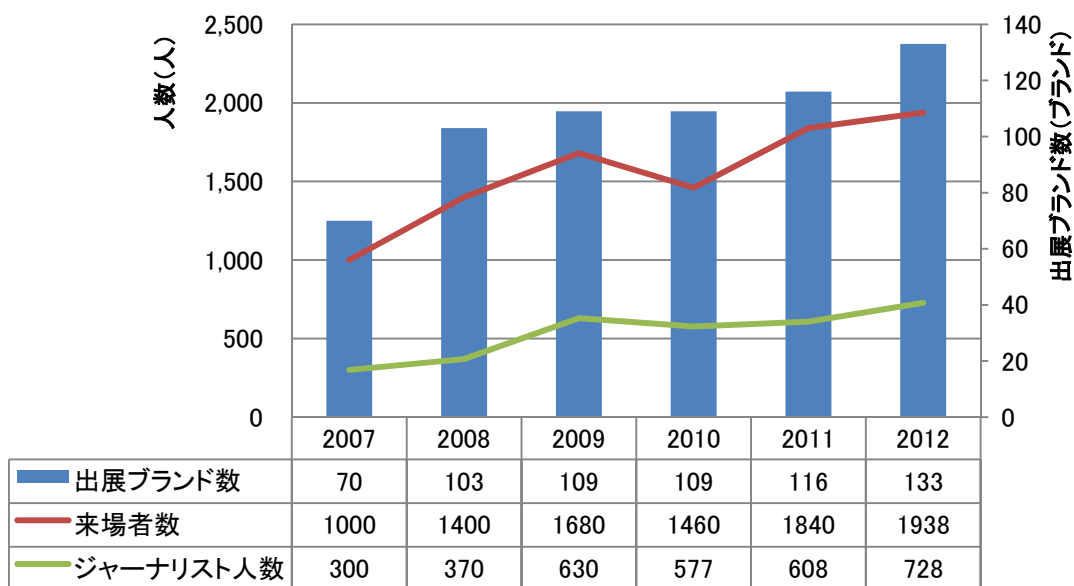
※上記数値はメッセ事務局 9/5 付出席者リストより集計

## 2. DEMO DAY2012 参加報告

### ①DEMO DAY 概要

今年で 6 回目の開催となるユーロバイクのイベント「DEMO DAY」は、同展開催前日の 8 月 28 日（火）に昨年と同じ場所で行われた。開催地のアルゲンブールはユーロバイクの展示会場であるフリードリヒスハーフェン見本市会場からバスで約 40 分の所にある標高約 700m の緑豊かな田舎町である。

開催当日は快晴となり、屋外催事に絶好の好天に恵まれた。DEMO DAY 会場へは適切な公共交通機関が無いとため、同見本市会場から 20 分毎に無料のシャトルバスが出ており、今回、行きは朝 10 時頃、帰りは 15 時頃のバスを利用したが、往復とも全員着席できる程度の混み具合であり、大きな渋滞もなかった。



図表3： DEMO DAY来場者数、出展ブランド数の変遷

2012年の開催規模については、図1に示すように、本年の来場者は昨年より98人多い1,938人、ジャーナリスト数は120人多い728人となり、過去最多の来場者数となった。天候不良であった2010年を除けば、出展者、来場者とも年々増加している。また、今年は新たにマレーシア、インドネシア、シンガポール及びイランの取材者が参加する等、DEMO DAYへの国際的な関心も年々高まっている。

出展ブランド数は前年より17ブランド増加の133ブランドとなり、こちらも過去最多となった。今回の主な出展者は、完成車では欧州ブランドのスコット、フォーカス、オルベア、BMC、ゴースト、コルナゴ等。米国ブランドではスペシャライズド、GT、キャノンデール等、台湾ブランドのジャイアント、メリダ等が見られた。部品・付属品関係ではシマノ、スラム、FSA、

タイヤのピットリアやシュワルベ、鍵のアブス等、その他にも様々なブランドが見られた。



DEMO DAY展示会場の様子

## ②試乗体験

会場到着後、受付にて自転車試乗の申込をする際には、試乗申込書に怪我などをした場合は自己責任となる旨を承諾するサインをし、申込が済むと腕にリストバンドが巻かれる。会場には更衣室も用意されているが、試乗目的の来場者の多くは試乗に備えた服装の人が大半で、ヘルメットやゴーグルを持参の人も多く、そのまま会場に向かっている人が多かった。

会場入口前では、ボトルとスポーツドリンクを無料で提供している出展者や、またはボトルだけ配布し中身はブースにて補充するといったところもあった。そのため、会場入口付近は入場者に加え、試乗に出発するライダーでごった返していた。

会場内には各出展メーカーがブースを出しており、試乗の際には各ブースで受付を行い乗車が可能となる。ブースによって受付方法が異なり、高額品を扱うブランドではクレジットカードや身分証明書を預ける必要があるところもあった。今回は名刺と署名で利用でき、併せてヘルメットのレンタルも可能な出展ブランドの自転車を試乗した。

試乗コースは合計5ルートあり、主に会場周辺の道路を走行するコースである。今回はロードバイク用の短距離コース (ROUTE4) を選んだが、ここは一般道を使用していることもあり、途中、自動車も並走する場所もあった。コースには所々矢印で順路を示す看板があるが、看板を一つ見逃してしまうと、土地勘がない人や地図を携帯していない人は道に迷う恐れもあり、実際に地図を携帯しなかったために迷ってしまった。なお、コースに関係なく進むライ



ダーもおり、コースの管理運営に関してはあまり縛りが無いようでもあった。更にコースを高速で走行する人も多く、会場近くの住宅街などの複雑な箇所では危険を感じたが、実際に衝突などトラブルが発生している場面も見かけた。しかしながら、日本では経験できない非常に開放的で緑豊かな風景と共に、自転車の試乗ができることは本イベントの醍醐味である。



試乗コースの様子

各ブランドの出展自体はMTBやロードバイク等のスポーツ車が中心である。その中でも特に人気があった車種はMTBであった。オフロードコースの走行により泥だらけになった自転車がひっきりなしに試乗されていたが、泥の付き具合の激しい自転車ほど、カメラマンの格好の被写体となっていた。MTBに次いでロードバイクも人気があったが、その他、リカンベントやe-bikeなどもそれなりに人気はあったが、やはり試走の甲斐があるMTB目当ての来場者が圧倒的に多かった。

本イベントの大きな特徴として、参加者の多くが全力で試乗していた姿が多くみられたことが挙げられる。安全や運営の面でまだ課題はあるかもしれないが、出展者のみならず、来場者の参加意識も高く、両者が一体となって試乗会の雰囲気盛り上げていた。当日は動きやすい服装で行ったつもりであったが、ヘルメットとゴーグルを持参して、泥だらけになってもよい服装で来場していたならば、様々な自転車に試乗することができ、より一層この試乗会が有意義なものとなったであろう。

来年のDEMO DAYの日程は、EUROBIKE2013の開始前日、8月27日(火)に同じ場所で開催予定である。

以上